

日本仏教社会福祉学会 ニュースレター No.31

CONTENS

- ・平成31（令和元）年度 第1回 理事・役員会報告
 会員異動 / 平成30年度事業報告・決算報告
 平成31年度 第54回大会（浅草寺）について
 令和2年度 第55回大会について
 理事選出選挙について / プロジェクト報告
 学会パンフレット / HP更新予定 など

日本仏教社会福祉学会 事務局

〒360-0194
 埼玉県熊谷市万吉1700
 立正大学 社会福祉学部内
 TEL : 048-536-1328 (代)
 FAX : 048-536-2522 (代)
 MAIL : info.jabsws@gmail.com

平成31年度 日本仏教社会福祉学会 第1回 理事・役員会報告

日時：平成31年4月20日（土）
 15：00～17：30

場所：立正大学 品川キャンパス

出席 代表理事 清水海隆

個人理事

石川到覚 栗田修司 新保佑光
 長谷川匡俊 藤森雄介 宮城洋一郎

団体理事

小島恵昭 長上深雪 吉村彰史

監事 梅原基雄 山口幸照

事務局長 吉村彰史（団体理事兼任）

オブザーバー

平田真紹・金田寿世（浅草寺福祉会館）

欠席

個人理事 落合崇志 田宮仁 長崎陽子

野田隆生 鷺見宗信

団体理事 渋谷哲 宮崎牧子 池上要靖

議事報告

事務局：開会の宣言。出席理事の確認。

1 定足数の確認

理事役員数の2分の1以上が出席し、理事会規定第6条に基づき理事会は成立した。規定に基づき、代表理事を議長とした。

2 議案

第1号議案 会員の異動について

（1）入会会員の承認について

次の個人会員5名の入会の申し出が説明され、承認された。

個人会員

- ・常松洋介（豊島区役所・保健福祉部長）
- ・アダム・ライオンズ（京都アメリカ大学コンソーシアム・ポスドク）
- ・山下和夫（D-PCAセンター主宰・元美作大学准教授）
- ・前廣美保（武蔵野大学・通信教育部）
- ・大竹一史（会費納入の上で再入会）

（2）退会会員の承認について

次の個人会員9名の退会について説明され、承認された。

- ・福島栄寿（本人の申し出による）
- ・武田道生（本人の申し出による）
- ・澤田景子（本人の申し出による）
- ・長谷川良昭（逝去）
- ・原田克己（会員継続の意思なしとみなす）
- ・伊東秀一（会員継続の意思なしとみなす）
- ・藤本信隆（会員継続の意思なしとみなす）
- ・鹿野雅一（会員継続の意思なしとみなす）
- ・花嶋文雄（会員継続の意思なしとみなす）



以上のことから、2019年4月20日現在の会員数は以下の通りとなった。

個人会員 200+5-9=196名

団体会員 23団体 計 219会員

(3) 会費未納会員について

事務局より、会費未納会員の現況について以下の通り説明された。

4年未納 4名 3年未納 11名

2年未納 19名 1年未納 36名

団体会員 3団体

該当者に対しては、今年度の年会費のご案内の際に、個別に納入願いを別途同封する。

(4) 会員種別変更希望届について

事務局より、会員種別の体制の変更に伴い、一般会員（これまでの個人会員）から学生会員・賛助会員・実践会員へと変更が可能になった。そこで、事務局に提出してもらった変更希望届の申請フォームについて説明された。年会費のご案内、ニュースレター等とともに同封されることとなった。

(5) 入会申込書（個人）について

会員種別の体制の変更に伴い、個人の入会申込書のフォームを変更することが事務局より説明された。変更点は右上の会員種別選択の欄である。

また、新規に作成した学会の三つ折りパンフレットには「会員推薦人」の欄がないこともあり、推薦人の要・不要について議論された。

意見：送られてきた書類上では、入会の動機がわからないが、推薦人がいる場合は概略がわかるので、備考欄に書いてもらうのはどうか。

意見：申し込みの問口は広げつつ、入会の審査はちゃんとやる、という二段構えは必要。申し込んだら自動的に入会できるわけではないことを伝える必要がある。

結論としては、以下のとおり決定した。

- ・申し込みフォームは三つ折りパンフレット版ではなく、A4版の入会申込書を正式なものとする。

- ・パンフレットの様式で入会の申し込みが届いたら、再度、A4版のものに記載してもらうよう事務局からお願いする。

- ・年二回の理事・役員会で入会審査があることをきちんと伝える（A4版の備考欄にも記載）。

- ・推薦人がいない場合は事務局で対応するので、その旨、事務局まで相談してもらう（A4版の備

考欄にも記載）。

第2号議案：平成30年度事業報告・平成30年度収支決算（案）について

以下、事務局より説明された。

1. 総会・理事会開催

平成30年度総会 平成30年9月29日（土）

（於：身延山大学）

平成30年度理事会

第1回 平成30年4月28日（土）

（於：立正大学 品川キャンパス）

第2回 平成30年9月29日（土）

（於：身延山大学）

2. 年報刊行事業

平成30年度 第49号刊行

第49号は、諸般の事情により予定より遅れたが、平成30年度内に刊行できた。（会員への発送は平成31年4月18日）

3. 研究助成事業

1) 「仏教社会福祉」勉強会の開催（「『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会」より改称）平成30年度は、関東地域で1回開催した。

平成31年2月13日（水）

（於：浅草寺普門会館2階）

「仏教福祉における更生保護」

講師：梅原基雄（本学会会員）

2) 学会賞（学術賞・奨励賞）授与事業

第6回学会賞（対象期間：平成27年1月1日～平成29年12月31日）

厳正なる審査の結果、頼尊会員に対し奨励賞が授与された。

奨励賞 頼尊恒信著『真宗学と障害学』

（生活書院、平成27年）

4. 第53回学術大会開催事業

平成30年9月29日（土）～30日（日）

於：身延山大学

大会校の身延山大学をはじめ、関係各位の協力のもと、実り多い大会を開催し、無事に終了することができた。

今回は台風が迫りくる中ではあったが、日程を変更するなど臨機応変に対応し、安全に大会を運営することができた。

5. 広報事業

1) ニュースレターの発行 (年2回)
29号・30号を発行することができた。(30号の発送は2019年4月18日)

2) ホームページ維持・管理
株式会社 国際文献社
年2回、更新を行った。

3) 学会メーリングリストの活用
学会メーリングリストを活用し、情報配信や情報提供の呼びかけを適宜、行なった。登録者は80名を超えている。アドレスは
info.jabsws@gmail.com

4) 学会パンフレットの作成・配布
学会パンフレット (A4の三つ折りサイズ・カラー) を作成した (700部)。教師数500名以上の仏教教団を中心に、42団体に対しパンフレットを郵送し、当学会の存在をアピールし入会を募った (発送は2019年4月18日)。

5) 他学会との連携

- ・仏教教育学会・仏教文化学会と情報を共有し、連携していくこととなった。
- ・龍谷大学の国際社会文化研究所と淑徳大学のアジア国際社会福祉研究所の共同シンポジウム「アジアの仏教ソーシャルワーク～日本が忘れてきたもの～」を後援した (12月22日)。

6. 研究事業

1) 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト
(プロジェクト委員長：新保祐光)

研究組織の体制作りを課題とし、体制の立て直しを図った。淑徳大学の「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」への研究協力と、臨床宗教師の養成課程に関わることで、宗教者の社会的実践の基盤となる価値は何か、それを具現化する知識、技能とは何かの検討を行った。

2) 仏教社会福祉学研究史 (仮) プロジェクト
(プロジェクト委員長：池上要靖)

3) 日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発プロジェクト (略称：国内開発、旧：東日本震災対応プロジェクト) (プロジェクト委員長：藤森雄介)

①「東日本大震災を契機とした地域社会・社会

福祉協議会と宗教施設 (仏教寺院・神社など) との連携に関する調査」について、調査票については集計を完了し、第53回大会にて、集計結果からみられる傾向等を報告した。また、日本宗教学会、浄土宗教学大会にて、本研究の成果の一部を発表した。地域社会における寺院、僧侶等の実践のモデル事例については11月以降、順次調査を開始した。

②「仏教社会支援活動プラットフォーム」について、9月28日現在、登録済2件、承認済登録待ち17件、承認申請1件、計20件である。全日本仏教会前事務総長の久喜氏にご協力頂きながら、主な宗派教団の該当部署を直接訪問しての登録依頼を継続した。

7. 特別事業

1) 日本仏教社会福祉学会50周年記念事業委員会 (委員長：清水海隆)

『50周年記念誌』資料編のDVDについては、継続して作業・検討を行った。

8. 学会事業担当 (平成30年度)

1) 担当理事及び委員会

① 年報編集担当理事：栗田修司

編集委員会：栗田修司 (編集長兼務)

大久保秀子・清水隆則・長崎陽子・藤森雄介
査読委員：25名

② 研究担当理事：新保祐光・藤森雄介

・仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト：新保祐光

・国内開発プロジェクト：藤森雄介

・「仏教社会福祉」勉強会：長上理事 (関西担当)・梅原監事 (関東担当)

・『仏教社会福祉学研究史 (仮)』編集刊行委員会：池上要靖

③ 庶務担当理事：吉村彰史 (事務局長兼務)

・事務局：吉村彰史

次に、決算報告について事務局より以下の通り説明された。

収入の部、個人会員費「6,000円×2口」とは、29年度、会費を10,000円納入した会員2名について、30年度は6,000円でよいと伝えたことによる。

貯金利子「34,526円」とは、学会特別基金100万円が満期になったことに付随した利子で

ある。100万円は再度、定期貯金にて保管していく。

雑収入84,000円はすべて年報の売上である。27～33号は2,000円、34号以降は2,500円で販売している。バックナンバーを含め合計70冊の売上があった。

支出の部、予備費について、「学会三つ折りチラシ印刷」については、700部作成して6,566円であった。

平成30年度決算書については、梅原監事・山口監事に監査を受けた。

梅原監事より、収支が適切に運営され、残高等も正確に保管されていることが報告された。

意見：次年度繰越金が1,700,995円となっているので、そのうち100万円を新たに学会特別基金②として保管してはどうか。

事務局：そのように対応できるよう検討する。

事務局：年報の一般販売については、年に数度、書店を通して事務局に問い合わせがある。都度、不二出版を紹介している。

意見：バックナンバーの内容・目次について、さらに上手くPRしていく必要がある。

事務局：HPを充実させながら対応していく。

第3号議案：平成31年度 第54回大会（浅草寺）について

大会事務局・浅草寺福祉会館の平田真紹氏・金田寿世氏より、開催案内について説明された。

発表採用の可否および事前査読について意見交換され、学会事務局および編集委員会にて担当することになった。

さらに、シンポジウムにおいてはシンポジスト・コーディネーターに加え、仏教社会福祉という学術的視点あるいは広い視野からも議論を展開できるように、コメンテーターを1名、依頼することとなった。

【詳細は、すでに大会事務局よりご案内が届いていると思いますので、そちらをご覧ください】

平成30年度 日本仏教社会福祉学会 収支決算書(案) 平成30年4月1日～平成31年3月31日

収入の部

(単位: 円)

項目	予算額	決算額	増・減(▲)	摘要
前年度繰越金	50,600	1,610,118	1,559,518	
個人会員費	1,648,000	1,348,000	▲ 300,000	8,000円×167口+6,000円×2口
団体会員費	660,000	570,000	▲ 90,000	30,000円×19口
貯金利子	1,000	34,540	33,540	ゆうちょ銀行口座利子 定期満期分利子34,526円
雑収入	50,000	84,000	34,000	年報売上
収入計	2,409,600	3,646,658	1,237,058	

支出の部

項目	予算額	決算額	増(▲)・減	摘要
大会助成費	400,000	400,000	0	第53回大会助成(@身延山大学)
年報刊行費	1,000,000	791,640	208,360	年報49号編集経費
研究費	100,000	10,000	90,000	関東ブロック勉強会 講師謝礼(平成31年2月13日)
会議費	20,000	6,528	13,472	理事会会議費等
交通費	200,000	76,340	123,660	諸会議交通費等
通信運搬費	100,000	150,444	▲ 50,444	郵便及宅急便費
事務費	30,000	16,450	13,550	文具消耗品
謝金	300,000	360,000	0	事務員謝金
雑費	5,000	4,276	724	振入手数料
学会賞賞金	150,000	50,000	100,000	頼尊恒信会員(奨励賞)
学術会議分担金	20,000	30,000	▲ 10,000	日本社会福祉学系学会連合
ホームページ維持費	32,400	32,400	0	平成30年度支払(国際文献社)
理事選出選挙事務費	0	0	0	
予備費	20,000	17,585	2,415	学会賞関連+学会三つ折りチラシ印刷
支出計	2,377,400	1,945,663	431,737	

収支総合計

項目	予算額	決算額	増・減(▲)	摘要
収入計	2,386,000	3,646,658	1,260,658	
支出計	2,292,400	1,945,663	▲ 346,737	
次年度繰越金	93,600	1,700,995	1,607,395	平成31年度へ

※学会特別基金①1,000,000円(平成20年7月23日付にて郵便定額貯金で保管)

第4号議案：令和2年度 第55回大会について

代表理事より説明があった。ここ10年を振り返ると、団体会員の大学、研究者のいる大学等を中心に、大会を開催してきた。最近では淑徳大学、立正大学、種智院大学、身延山大学、浅草寺ときたわけだが、これまでのこと、また昨今の大学や会員の方々の色々な状況を鑑みると、地域を決めて、理事の中で協議していく必要がある。もちろん、今まで開催したことのない地方で仏教社会福祉のさまざまな取り組みを掘り起こす必要はあるが、すぐに状況が整うかという現実的には難しいと考えられる。

そこで次年度、55回大会は関東の理事を中心に協議して決めていく。56回、57回大会は関西の理事を中心に協議して決める、また時に中部で、というような方式にさせていただきたい。

意見：京都は「京都コンソーシアム」という大変良い施設があり、加盟校の専任教員であれば格安で借りることが可能である。事前準備や当日の人員配置などの点がクリアになるのであれば、そういった会場での開催も今後、検討できると考えられる。

第5号議案：理事選出選挙について

事務局より、理事選出選挙の日程、流れ、留意点について説明・確認された。

選挙管理委員会については3人体制、すなわち現事務局1人、前事務局1人、もう1人。したがって、吉村（現事務局。選挙委員）、藤森理事（前事務局。選挙委員長）、さらに会員から1名を選出することとなった。**【その後、協議の上、百瀬ユカリ会員に選挙委員を依頼することとなった】**

意見：選挙の前に、会費未納者には個別に呼びかけ、選挙の投票率を上げる配慮が必要である。

意見：現理事の中には、理事会や総会への出席率が低い方もいる。任命の方法や理事の定数など、変えていく必要があるのではないかと。さらに、理事は当学会をリードする者であるから、任期中に一度は学会発表や論文投稿をするといったことを義務付けてはどうか。

意見：選挙での得票数だけでなく、ご本人の意思をしっかりと確認する必要がある。

意見：定員は18名であるが、数を満たさなければいけないということはない。理事としての役

割をきっちり果たせる方を精査し、任命しなければならない。

代表理事：定員数の改定については総会に諮らなければならないので、今回の選挙には間に合わない。理事の資質や義務、何より本人の意思確認など、7月の開票以降、できることをしっかりやっていきたい。

3. 報告事項

①各研究プロジェクトについて

年報編集委員会・査読委員会：栗田理事より以下の通り報告された。

平成30年度 活動進捗状況報告

- ①年報49号の発行。
- ②年報編集委員会開催（悪天候のため中止）
- ③年報50号に向けての編集作業
- ④投稿原稿フローチャートの検討（開始）

平成31年度 事業・活動予定

- ①年報50号発行に向けての編集作業と発行
- ②年報編集委員会開催（9月11日@浅草寺）
- ③年報51号発行に向けて
- ④投稿原稿フローチャート（継続）
- ⑤論文執筆のサポート体制の検討（継続）

特に事例研究の論文作成方法に関して）

栗田理事：年報50号については、査読にまわす原稿2本、図書紹介2本を検討中である。

1本の論文が〆切よりだいぶ前に投稿された。〆切の期日を待って査読を開始したので、投稿者に査読結果が届くのが遅くなった。年に1回の〆切だが、今後、対応を改善していきたい。

それぞれの投稿のアブストラクトの英語は、各人がネイティブの方にチェックしていただいているが、英文目次を作成する際、大会テーマ・講演の題名やご所属についての英語表記についても、ネイティブにチェックしてもらう必要がある（特に肩書き、宗派の「管長」「執事」など）。今回は特別に、淑徳大学の郷堀ヨゼフ会員に依頼したが、今後、こういう大会全体に関わるところの英語に関するチェックについては特別にどなたかに依頼する必要があると考えられるので、対応ご検討いただきたい。

事務局：年報編集を速やかに行うためにも、大会開催時に確認しておくようにしたい。

国内開発：藤森理事より以下の通り報告された。

平成30年度 活動進捗状況報告

①「東日本大震災を契機とした地域社会・社会福祉協議会と宗教施設（仏教寺院・神社など）との連携に関する調査」について。調査報告書を作成中。今秋の学会大会までの発行を目指す。

②「仏教社会支援活動プラットフォーム

(BPH)について。昨年11月以降、全日本仏教会前事務総長の久喜氏からのアドバイスを受けて、各宗及び関連団体の担当部局を訪問し、BPHに関する説明や協力要請を行った。これまで、天台宗、高野山真言宗、真言宗智山派、日蓮宗、曹洞宗、臨済宗妙心寺派、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、シャンティ国際ボランティア会、全日本仏教会、日本臨床宗教師会をそれぞれ訪れている。

平成31年度 事業・活動予定

①について。報告書を作成中であり、関連して、現在、何らかの活動を行っている地域、寺院の事例の報告も合わせて行っていく予定である。

②について。現在、20件以上の登録申請があり、それぞれ申請承認は行っているものの、本申請には至っておらず、その点についての改善を行っていく。一方、今回の訪問の結果、シャンティ国際ボランティア会や真言宗智山派から登録申請を受けている。また、4月1日付けで、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所所長名で各宗務総長に本件に関する協力要請の依頼文をお送りしている。これについても、日蓮宗宗務院より詳細の説明を伺いたいとの連絡を頂く等の動きがあり、今後につなげていくよう広報的な活動を継続していきたい。

仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト：新保理事より以下の通り報告された。

臨床宗教師の養成課程に関わっている。ソーシャルワーク専門職との接点をもつ中で、宗教者の社会的実践の基盤となる価値、仏教の価値について検討している。ここ数年、養成課程に関わりながら見えてきたことがあるので、今年、できるだけ早く形にしていきたい。

また、淑徳大学のアジアにおける仏教ソーシャルワークの学術研究に協力している。新保所属の大正大学チームは中国を担当している。なお台湾・中国・韓国の3つの地域については日本語版が先行して刊行される予定である。

②学会パンフレットについて

事務局より以下の通り報告された。

今般、広報事業の一環として、学会の三つ折りパンフレットを作成した。費用等については平成30年度決算で述べた通りで、700部を作成した。【このニュースレターに同封】

平成29年度版『宗教年鑑』を参照し、「教師数500名以上の団体」、および仏教社会福祉と関連のある団体をピックアップし、42の団体にパンフレットを5部ずつ送付した。団体名は以下の通り。（なお、真言宗善通寺派は昨年度、団体会員にご入会いただいたので、今回は送付していない）

天台宗・天台寺門宗・天台真盛宗・本山修験宗・金峯山修験本宗・念法真教・高野山真言宗・真言宗醍醐派・真言宗御室派・真言宗大覚寺派・真言宗智山派・真言宗豊山派・真言宗国分寺派・真言宗金剛院派・真如苑・浄土宗・浄土宗西山禪林寺派・西山浄土宗・浄土真宗本願寺派・真宗大谷派・真宗高田派・真宗興正派・真宗佛光寺派・時宗・臨済宗妙心寺派・曹洞宗・日蓮宗・日蓮正宗・法華宗（本門流）・本門佛立宗・霊友会・妙智会教団・佛所護念会教団・大慧會教団・立正佼成会・思親会・日蓮誠宗・華嚴宗・真言律宗・黄檗宗・融通念仏宗・孝道教団

事務局：今後も、地道なPRを継続していきたい。必要であれば発送するので、部数を事務局までお知らせください。

③HP更新予定について（1回目）

事務局よりHP更新予定が示された。

- ・新着情報 第54回学術大会について
- ・日本仏教社会福祉学会会則（改訂版）
- ・日本仏教社会福祉学会 大会テーマ一覧（2016～2018分追加したもの）
- ・学会賞 第6回 頼尊氏追加
第7回要項改訂 授賞式＝令和3年度
- ・年報 49号目次に改訂
期間号総目次を2019年版に改訂
- ・ニュースレター
第30号追加、可能であれば第31号も追加
- ・個人会員（一般会員） 入会申込書改訂版
- ・会員種別変更希望届
- ・年会費 新しい会員種別に改訂して記載
- ・学会パンフレットPDF 追加

『日本仏教社会福祉学会年報』 投稿論文募集！

- (1)本誌に発表する論文等は、未発表のものに限る。
- (2)投稿の種類は、研究論文・研究ノート・実践報告・海外情報・資料紹介・図書紹介・その他とし、掲載ジャンルは編集委員会において決定する。
- (3)本誌の原稿枚数は、原則として研究論文は20,000字以内、その他は16,000字以内とし、縦書き・横書きとする。
- (4)投稿は自由投稿および依頼投稿とし、自由投稿の締め切りは毎年1月末日とする。
- (5)投稿に際しては、印刷原稿3部および電子媒体を学会事務局へ提出する。学会事務局は、提出が確認された後、投稿者へ「受付証」を発行する。
- (6)執筆上の細目は原則、次の通りとする。
- ①論題名、執筆者名、所属を明記し、論題名と執筆者名には欧文を添付する。
 - ②本文は常用漢字、現代かなづかいを使用する。
 - ③長文の出典引用の場合は、二字下げて記述する。引用・参考文献の明記については、本文中に脚注番号を付し、本文の最後にまとめて列挙する。
 - ④引用・参考文献の記述は、脚注番号、編・著者名、書名または論文名、所収書名また巻・号、発行所、発行年、ページの順とする。
 - ⑤図表については、掲載順に番号と題名を付し、掲載箇所に添付する。
- (7)執筆者が抜刷を希望する場合は実費とする。ただし「基調講演」「シンポジウム」等の学会より依頼した執筆者には、1編につき抜刷30部を贈呈する。
- ※詳しい投稿要領は学会HPからも確認できます。投稿をご希望の方は、事務局までご一報いただければ詳しくご説明いたします。**

編集後記

令和の御代となりました。例によって大変遅くなりましたが、ニューズレター31号をお届けいたします。

「令和披薫」と申します。万葉集に曰く、「初春令月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。」と。

皆さまの常日頃の心がけ、お念仏の口ずさみ、唱えるお経の一文字一文字の功德が遍満し、みほとけの世界が実現され、仏教社会福祉の営みがますます令和の御代に華開き、香り高く感じられますように、心よりお祈りいたします。

すでにご案内が届いていると思いますが、9月には浅草寺にて第54回大会『寺院による福祉活動』が開催されます。皆さまどうぞお誘い合わせの上、ご参加ください。会場でお会いできますことを心より楽しみにしております。(事務局)

メーリングリスト登録に ご協力ください

事務連絡や災害時の連絡など、すでに運用が始まっています。未登録の方はぜひ、お早めに下記アドレスまでご一報ください。

info. jabsws@gmail.com